

「コロナ禍をボウリング場が生まれ変わる好機に！」

▶ 森友徳兵衛氏(全卸連会長) / 森友通商株式会社代表取締役



◀ 扇一平氏(株式会社トミシージャパン代表取締役)

緊急企画 森友徳兵衛&扇一平 両氏に聞く / 後編

扇 JPBA★SSSカップは、ボクと森友がそれぞれ大事にしてきた「人とのつながり」が生きた大会でもあったと思う。

森友 そうだね。

扇 これまでボウリング界は、ある意味閉鎖された社会だった。ボクが会社を立ち上げて最初に出したのが「ボウリング・ネットワーク」という企画。「インターネットにまとめサイトを作って、業界全体でボウリングを盛り上げていこう」という主旨だった。それは通らなかったけど、KUWATA CUPを契機に業界が一つにまとまり始めて、日本ボウリング機構(JBO)ができた。あれはボクが3年前に出した企画そのもので、すごくうれしかった。今は業界が一つになって、外に向かって発信していかなければならない時代なんだと思う。

——KUWATA CUP同様、JPBA★SSSカップも業界全体にいい刺激を与えた大会だと思います。今年も開催できると思いますか。

扇 続けたいですけど、ホントに余計なもの(新型コロナ騒動)がね(苦笑)。

森友 コロナが落ち着けば、ボウリング場は比較的早く営業再開できると思うんですよ。大会も11月くらいなら大丈夫だろうと思うけど、問題は参加する人たち(協賛社)に理解してもらえるかどうか。「この状況で大会を協賛すると、世間からひんしゅくを買うんじゃないか?」とか「1年延ばそう」という意見が出てくるかも。

扇 インフルエンザと同じで、コロナが百パーセントなくなるわけじゃないからね。一つの大会を協賛するのではなく、窮状から立ち直ろうとする日本社会全体を応援するという意識で協賛してもらえればと思う。

コロナ収束後の社会は?

——今、森友会長は本業のほうもお忙しいのでは?

森友 マスクや除菌関係の商品が不足しているので苦労しています。とくに除菌関係は、海外に製造を依存していた容器が足りない。マスクなどはようやく国内で生産する動きが加速してきましたが、人件費が安い国で作って、安価で提供するというのが従来のカタチで、あるパーツだけが間に合わなくて商品が完成しないというケースが多いんですよ。



▲「除菌モース」でハウスボールを消毒する相模原パークレーンズのスタッフ

扇 今回のコロナ騒動で大量に吐き出したから、今後は備蓄をしっかりしないと。モノが不足して、人間の気持ちが悪くなる。いくのがいちばんイヤだ。

森友 変な噂が立って、トイレトペーパーが一時不足したりとかね。実際はダブつくくらい在庫があるのに(苦笑)。大型トラックの運転手不足と高齢化で物流に無理がきかない状況もあるんで、品薄な商品は予約販売にすればいい。

——今、消毒液はなかなか手に入らないので、ボウリング業界は森友さんとのつながりがあって助かった部分もあります。

森友 (笑)。ボウリング場協会

にもできるだけ回せるようにしています。

扇 コロナウイルスの特性を考えると、今ボウリング場でいちばん大事なのはハウスボール・ハウスシューズの消毒でしょうね。閉鎖中のボウリング場も、毎日一生懸命に清掃や消毒作業をして、再開に備えていると思います。

——コロナ騒動が収束したら、社会の在りようも変わりますか?

森友 現状が理想というわけではないので、ある程度は変わっていくでしょうね。でも、テレワークだ何だといっても、人間同士、直接会ってスキンシップを図ることも大事。われわれの商売だって、人と会って話をして、初めて信頼関係が生まれるわけですから。

扇 ボクは、どんなことがあっても立ち上がる日本人の底力に期待したい。外国からは「島国根性」なんて言われるけど、よき仲間を作って一緒に盛り上げていくという人種なので。

森友 コロナのせいで、ボウリングでハイタッチができなくなったら寂しいかな(笑)。

——案外、ボウリングがコミュニケーションスポーツとして見直されるかもしれないですね。

扇 全卸連のCSSカップでは、参加者がまず最初に始めるのが同じボックス内での名刺交換なんです。森友がうまく、卸とメーカーの組み合わせを作るんですよ(笑)。

笑顔で元気なあいさつを!

扇 とところで、ボクがボウリング場に行くたびに、関係者に声を大にして言っているのは「一般のお客様がいちばん大事」ということ。ボウリングに復帰し

新型コロナウイルス感染拡大防止を目的として発令された「緊急事態宣言」は、大型連休明けの5月7日から25日までの間に47都道府県すべてで解除され、感染リスクの高い遊技場として「休業要請」の対象施設となっていた全国のボウリング場の営業も、各地域のガイドラインに従って順次再開され始めた。だが、長い自粛休業期間中に経営状況が逼迫したセンターも少なくない。ボウリングをこよなく愛する森友&扇両氏は「ボウリング場がなくなってしまったら困る」と、あえて厳しい提言を口にした。(4月20日、森友通商の社長室にて取材)

たとき、最初に疑問を感じたのが、接客態度の悪いボウリング場が多いことだった。

——たしかに、サービス業という意識が低いのか、愛想のないスタッフも少なくないですね。

扇 この自粛休業期間にスタッフの気持ちも一回リセットできれば、ボウリング場も生まれ変わるのでは? 営業再開のあかつきには、フロントのスタッフはとびきりの笑顔と元気なあいさつでお客さんを迎えてほしいと思いますね。

森友 (頷く)

扇 その上で、ボクらの活動が目指しているのは、会員ボウラーもカラダの不自由な方も一見のお兄さんたちも、横並びで楽しくボウリングができる世界。そのためには、お客さんに最低限のルール・マナーを周知させることも必要ですね。

森友 (本紙記者に) 御社がルール・マナーのガイドブックを作って、ボウリング場に配布してもいいんじゃないですか?

——検討します(笑)。

最後にお一人ずつ、関係者あるいは本紙読者に向けてのメッセージをお願いします。

森友 ボウリングは、健康を保てれば百歳ボウラーも目指せる生涯スポーツであり、若い人もわれわれ年寄りも小さな子供たちも一緒に楽しめる、オール世代のスポーツです。このスポーツが世界中で未永く続いていくためにも、さっき扇も言っていたように、ボウリング場はこの機会にスタッフが笑顔で迎えてくれる素晴らしい施設に生まれ変わってほしい。われわれ一般

のボウラーも含めて、どうしたらみんなが楽しい気持ちで共存していけるかということ、同業者同士の横のつながり、密なコミュニケーションを大事にしながら考えていってほしいというのが、ファンとしての希望でございます。

扇 プロボウラーのみなさん、とにかく頑張ってください。そして全国のボウリング場も、存続をかけて死に物狂いで頑張っていただきたい。ボクらも応援します。どこも大変な状況でしょうが、今こそ会員の方々に立ち上がっていただいて、いろいろな知恵を出し合って存続の力になっていただけたらと思います。ボクらはとにかくボウリングが好きで好きでしかない人間なので、ボウリング場がなくなってしまったら本当に困ります。どうかみなさん健康で、また笑顔でボウリングができるように頑張りましょう!



▲好評を博した「JPBA★SSSカップ」第1回大会の表彰セレモニー(19年11月22日、東京ポートボウル)

追記: 前号で森友氏が「6月13日に延期」と語っていた『全卸連チャリティーボウリングCSSカップ』は、11月7日に再延期された。また JPBA公認大会『全卸連プレゼント JPBA★SSSカップ2020』は11月21、22日の両日、東京ポートボウルにて開催予定となっている。(6月4日現在)